



深田久弥

山の文化館だより

平成30年
冬号

深田久弥 山の文化館
〒921-0067
石川県加賀市大聖寺春場町十八
TEL 〇七六(一)七二一三三三
FAX 〇七六(一)七二一三三一

資料文献室(仮称) 増設工事始まる!!

永年の念願であった資料文献室の工事が始まりました。十月二十五日の地盤改良工事から始まり、基礎工事、建方へと進み、いよいよ形を現してきました。現在は、皆様から頂いた文献資料を十分な形で収納整理し公開するスペースが少なく、有効活用されない状況にありました。しかし、これが完成すれば飛躍的に収蔵能力が増え、文献資料の収蔵管理、公開がしやすくなります。



料をお寄せいただくなど、皆様方のお力添えを心よりお願い申し上げます。

なお、建物の完成は今春ですが、施設としてのお披露目は内部の整理が出来る秋頃になると思います。その折には、ホームページや山の文化館だよりなどでお知らせ致しますので是非ご来館下さい。お待ち申し上げます。

久弥と五万分の一地形図と赤鉛筆と

深田久弥は地図が好きで愛用していた。旧制福井中学の頃から歩いた道には赤鉛筆で線を書いていったようである。『福井の山と半島』(序文)そして、「地図を見ながら」「地図のたのしみ」などの文章も書いている。「地図を見ながら」は昭和九年一月号の『山』(日本山岳会会報)に掲載されたものである。その中で「沢の名前や小屋のありかなどが、必要以上と思われるほどたくさん委しく書きこんである。その間へ自分の歩いた道筋が赤鉛筆で引かれている。そういう地図を見ていると、千軍万馬の将軍が全勝の後を振り返るような気持ちになって、その当時の苦しかったことや楽しかったことがいろいろに思い出されてくる。」と地図を拡げたときの心の昂ぶりを書いている。それほど地図は多くのものを内蔵している。

久弥が愛用したそれらの地図は、「それを二十万分の一の区域ごとにわけて、カードのように箱に収めている。」と書かれている通り、木箱に入っている。その木箱二個を山の文化館でお預かりしている。関東、中部と東北の二個であり、全部で四百一枚ある。「一日丸潰しにして色鉛筆で綺麗に隈を入れたもの」とあるように等高線に囲まれた一部が薄赤く着色されたもの、尾根や、谷の名前が書き込まれたもの、赤鉛筆で登山ルート等をなぞった物、貼り合わせて一枚半の大きさにしたものなど興味深いものが多く含まれている。戦後の新しいものもあるが、興味深いのは明治末から昭和初期のものが中心である。調査を進めているが、

その中に『日本百名山』の中の記述に合致する書込みなどがあると、調べているこちらが興奮させられる。

調査が完了したときには展示などを通して皆様にお知らせしたいと思っている。



(注)「地図を見ながら」は単行本『わが山山』に「地図のたのしみ」は単行本『山によせて』に収録されている。『福井の山と半島』は福井大学ワンダーフォーゲル部OB会発行。

カンザン前山古墳

比留間 昇

カンザン前山に登って
日本海がみえる日は
たのしい
真青な海が
片山津温泉のビル群の上に
乗っているんだから

カンザン前山に登って
白山がみえる日は
うれしい
真白な山が
幾重もの緑の里山の上に
乗っているんだから

雪の降った次の日の朝
六号前方後円墳で
かもしかを見つけた
足跡を追ったら いた
木化けして更に近づく
くしゅんと白い鼻息を吐いて
ゆっくり去っていった

杖引いて 小半時
海拔五〇米余り
国道のくるまの音をみおろして
先人坐す わが村の山
終の山かな

(注) 比留間 昇氏
元加賀ハイキングクラブ会長
深田久弥と山の文化を愛する会会員
加賀市分校在住



「カンザン前山より」 撮影：井尻 茂勝氏

カンザン前山を訪ねて

比留間氏の詩に惹かれて、カンザン前山古墳を訪ねた。十二月半ば、珍しく晴れ間もみえた日、登りだすともうそこには雪が積もっていた。幸運なことに、詩にあるような真青な海がビル影から、そして白山の輝く嶺が木々の間から見えた。
自然を残した中にも、古墳山を大切に守られている方たちのお蔭で、とても居心地の良い古墳山となっていた。かもしか君との出会いを期待して、また訪れたいところである。



※カンザン前山古墳は、マエ山、チハカ山、大山に残る分校、松山古墳群の一部である。

間こゝ会予定

● 一月二十一日(日) 午後一時半より
深田久弥山の文化館 聴山房
演題…白山信仰と禅定道
講師…宮下 幸夫氏
(元小松市立博物館館長)

● 二月十八日(日) 午後一時半より
深田久弥山の文化館 聴山房
演題…森の作家・山の作家
講師…森松 和風氏
(森山 啓「久弥友人・作家」氏三男)

読書会のお誘い

八月より始まった読書会も四回目を終え、人数も徐々に増えてきました。手探りの状態で始めましたが、皆さんからたくさん意見が出て楽しい雰囲気の中進んでいます。

今後、百名山に限らず他の久弥作品も取り上げていきたいと思っています。皆様のご参加をお待ちしています。

一月二十三日 「御嶽山」
二月二十七日 「鳥海山」
三月二十七日 「雨飾山」

● 場所 深田久弥山の文化館 聴山房
● 時間 午後一時半より三時

* 詳細はホームページをご覧ください

編集後記

近年になく早く雪が来て積雪が期待されます。スキーに山に、雪の季節の楽しみに心が弾みます。資料文献室の充実に向けて努力してゆきたいと思っています。

深田久弥山の文化館ホームページ

<http://www2.kagacable.ne.jp/~yamabun>